

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	看護と人間工学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	松本 健吾	実務経験と その関連資格				
<b>《授業科目における学習内容》</b> 看護の場面では物理的なものの見方や、人間の体の運動生理学と力学を関連させたメカニズムを理解し、安全・安楽な移動の援助に活用する。 1. 様々な現象を物理学的に理解する手法を身につける 2. 現代の科学技術の基礎として物理学の役割と重要性を知る						
<b>《成績評価の方法と基準》</b> 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ベッドサイドを科学する 学研 看護学生のための物理学 医学書院						
<b>《授業外における学習方法》</b> 日ごろの生活の中での現象を学習内容と照らし合わせて、物理学的な視点で観る目を養う。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 予習・復習をすてYY						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 体位変換の原理となる物理的原理について述べるができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く	
	各コマにおける授業予定	第一章 質点の力学 ・力のつりあい、合成、分解 ・基本単位と組み立て単位 ・ニュートンの運動法則				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人が転倒しやすくなるのを防ぐための物理的原理について述べる ことができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く	
	各コマにおける授業予定	第一章 質点の力学 ・力の単位、垂直抗力、摩擦力 第二章 トルクとは、剛体のつりあい				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について述べる ことができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く	
	各コマにおける授業予定	第二章 剛体の力学 ・三角比、トルクの計算、重心と安定性				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について述べる ことができる。 2. 点滴の原理について述べるができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く	
	各コマにおける授業予定	第二章 剛体の力学 ・体位変換 第一章 質点の力学 ・速度と単位、点滴の速度				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 血圧、酸素ポンベ、低圧持続吸引など圧力との関連について原理 を述べることができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く	
	各コマにおける授業予定	第三章 流体 ・比重と浮力、粘性 第四章 圧力 ・圧力、気圧				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 点滴やドレーンの基本原理となる物理的現象について述べることができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く
		各コマにおける授業予定	第四章 圧力・水圧、血圧、酸素ポンプ、サイフォンの原理		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 看護に必要な電気の基本について述べる事があができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く
		各コマにおける授業予定	第六章 熱現象、比熱 代七章 音、音の三要素 第五章 電圧、電流、抵抗、アース		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 看護に必要な音の特異性について説明することができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んお く
		各コマにおける授業予定	第七章 音の強さ、騒音、dB 試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			